

# 第4次磐田市

概要版

# 多文化共生推進プラン

国籍・民族・文化の違いを認め合い  
笑顔であいさつを交わすまち 磐田



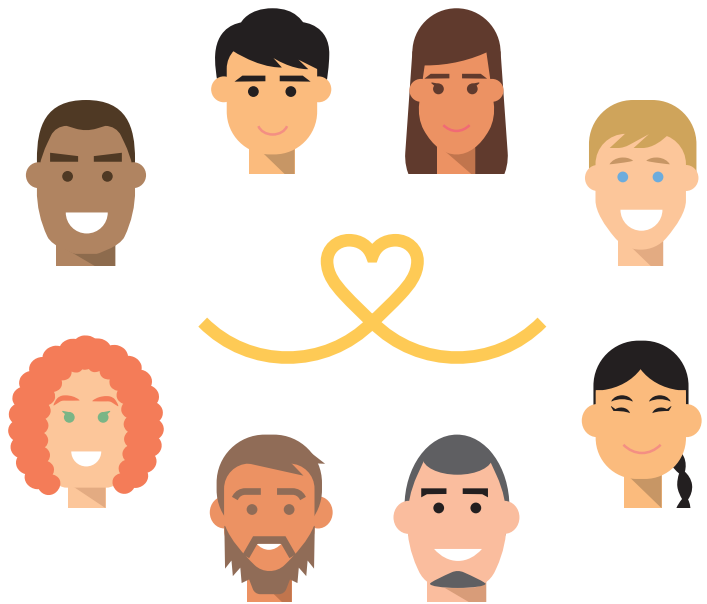
期間 令和4年度～令和8年度

## プラン策定の趣旨

磐田市では、2019（平成31）年の入管法改正により、在留資格に「特定技能」が新設されたことなどに伴い、外国人の多国籍化や定住・永住資格者の増加が進んでいます。

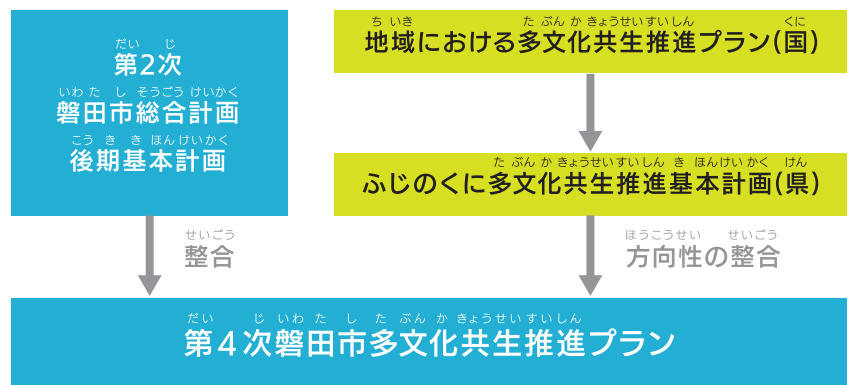
また、新型コロナウイルス感染症の拡大後、ICTの活用や多言語による情報提供、外国人が生活者として暮らすための初期日本語教育の推進が、外国人との共生社会に求められています。

これらの、社会情勢の変化に対応し、多文化共生をさらに発展させるため、現状と課題を整理したうえで、「第4次磐田市多文化共生推進プラン」を策定しました。



## プランの位置づけ

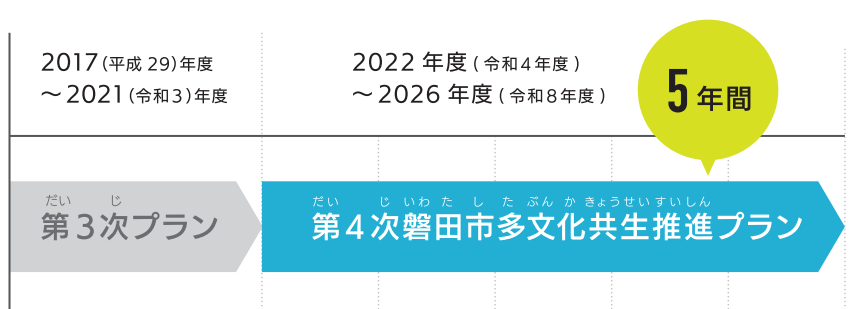
本市の行政運営の基本指針である「第2次磐田市総合計画後期基本計画」に沿った内容であり、他の関連計画と整合を図っていきます。



## プランの期間

本プランの計画期間を2022（令和4）年度から2026（令和8）年度までの5年間とします。

なお社会情勢の変化により必要に応じて見直しを行います。



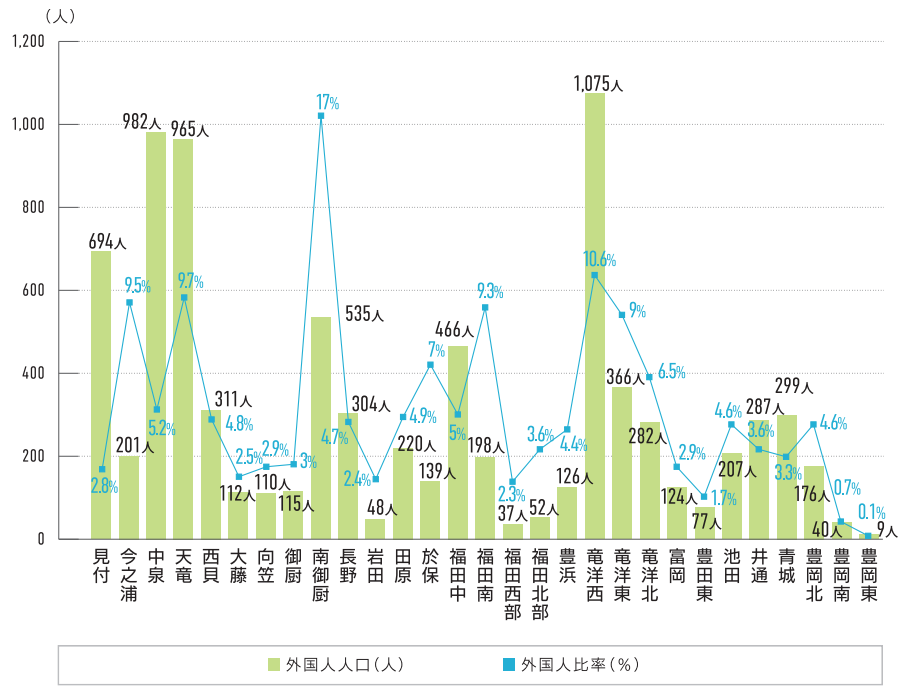
# 外国人の地区別人口

2007年(平成19年)頃は、出稼ぎのため日本を訪れるブラジル人が多く、短期滞在の方が南御厨地区の東新町団地など県営・公団住宅に多く住んでいました。定住・永住化が進んだ現在は、市内全域に分散して居住しています。

このため、日常生活圏内に外国人が多く暮らしている今日において、市内すべての地域住民が多文化共生について当事者意識を持つ必要があります。

# 地区別外国人人口および比率(市内)

2021(令和3)年3月末現在



# プラン策定の趣旨

国籍・民族・文化の違いを認め合い、笑顔であいさつを交わすまち磐田

## 基本理念

## 基本方針

- ### 01 多様な文化の違いを認め合える地域づくり

---

- ### 02 多言語対応と日本語学習機会の充実

---

- ### 03 安心して暮らせる環境づくり

---

- ### 04 みんなで築くIWATAの未来

# 外国人と日本人の親しみ度

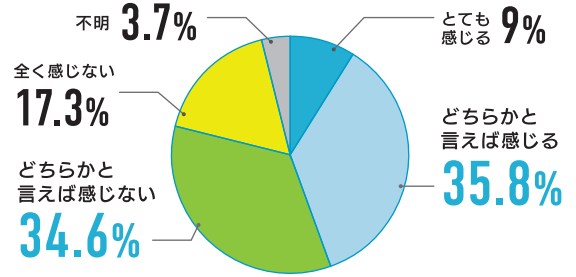
## 外国人と日本人の親しみの度合い

2020年度実施 静岡県多文化共生基礎調査

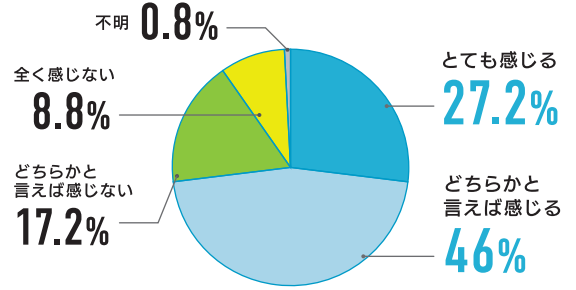
外国人市民で、日本人に親しみを「とても感じる」、  
「どちらかと言えば感じる」と回答した方は約7割である一方、日本人市民で、外国人に親しみを「とても感じる」、「どちらかと言えば感じる」と回答した方は約4割で、約3割の差があり、日本人のほうが外国人に対して心理的抵抗感を持っていることがわかりました。

このため、外国人に日本の文化を理解してもらうだけでなく、日本人が外国の異文化を理解する姿勢や、積極的に交流する機会をつくるなど、国籍の垣根を越えた「心の交流」が必要です。

### ◆日本人市民



### ◆外国人市民



■ とても感じる ■ どちらかと言えば感じる  
■ どちらかと言えば感じない ■ 全く感じない ■ 不明

## 基本的施策

## 具体的施策

## ※日本人対象

基本的施策	具体的施策	※日本人対象
1 相互理解の促進	①日本人市民へ多文化共生の啓発 ②外国人市民へ多文化共生の啓発 ③日本人市民と外国人市民の交流促進	● ●
2 協働の推進	④外国人市民に対し地域活動への参加促進 ⑤キーパーソンとなる外国人市民の育成・支援	● ●
3 ICTなどを活用した情報提供の充実	⑥「やさしい日本語」の活用 ⑦SNSの活用と多言語化の充実	●
4 日本語教育の推進	⑧日本語支援者の育成 ⑨日本語学習意識の啓発 ⑩日本語教室の実施・運営	● ●
5 危機管理意識の啓発	⑪災害・感染症に備えた支援体制の構築 ⑫防災意識の啓発	● ●
6 職場環境の整備	⑬外国人相談窓口の充実 ⑭外国人を雇用する企業の実態把握 ⑮外国人を雇用する企業に対する啓発	
7 子どもの教育環境の整備	⑯外国籍の子どもに対する支援体制の強化 ⑰外国人家庭に向けた教育制度の理解促進 ⑱教育に関わる機関と連携強化	
8 高齢化を見据えた施策の検討と制度周知	⑲高齢化に伴う課題共有と施策を検討する機会の創出 ⑳外国人市民へ年金・福祉・医療制度の周知	

※「日本人対象」…日本人市民にも求められる施策

## 基本理念

# 国籍・民族・文化の違いを認め合い

# 笑顔であいさつを交わすまち 磐田

日本人市民と外国人市民の双方が国籍・民族・文化の違いを認め合い、

日常生活の中で笑顔であいさつを交わしながら、

互いに歩み寄り、助け合うことができる多文化共生の

まちづくりを目指します。



## 基本方針

基本理念の実現を目指すために次の4つを基本方針に掲げて取り組んでいきます。



### 01

#### 多様な文化の違いを認め合える地域づくり

地域の日本人と外国人が互いの異なる文化や価値観などを認め合い理解し合うことで、だれもが対等な地域社会の一員であるという自覚を育みます。

また、互いに笑顔であいさつを交わし、歩み寄り、助け合える多文化共生の地域をつくりま

### 02

#### 多言語対応と日本語学習機会の充実

外国人市民が地域や職場で個々の能力を活かし、安定した生活水準を確保しながら日本で暮らせるよう、日本語学習機会の提供などにより学習意識と日本語能力の向上を図ります。

また、市政情報を受け取りやすいよう、「やさしい日本語」やSNSを活用し、効果的な情報発信に努めます。

### 03

#### 安心して暮らせる環境づくり

自治会や企業などと連携した支援体制の整備に努めます。

また、外国人情報窓口における生活・就労などに関する相談対応や情報提供、防災意識の啓発を行うことで安心して暮らせるまちをつくりま



### 04

#### みんなで築くIWATAの未来

だれもが将来の目標を描き、自由に進路を選択できるように教育環境を充実させることで、磐田を担う若い世代を育てま

また、外国人市民の高齢化に備え関係部署が連携し、危機意識を持って準備し早期に対応することで、誰一人取り残さない多文化共生社会を目指します。

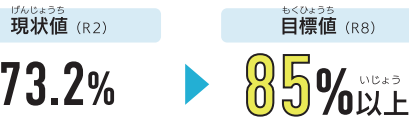
# 成果指標の一覧

プランを着実に実施し、多文化共生社会の推進を実効性のあるものにするため5年間の目標を数値化しました。

## 01 基本方針

### 多様な文化の違いを認め合える地域づくり

外国人市民の市民意識調査において、地域で暮らす日本人へ親しみを「とてもよく感じる」「やや感じる」と回答した人の割合



令和2年度 県多文化共生基礎調査 ※磐田市民の回答を抜粋

## 02 指標

日本人市民の市民意識調査において、地域で暮らす外国人へ親しみを「とてもよく感じる」「やや感じる」と回答した人の割合



令和2年度 県多文化共生基礎調査 ※磐田市民の回答を抜粋

## 02 基本方針

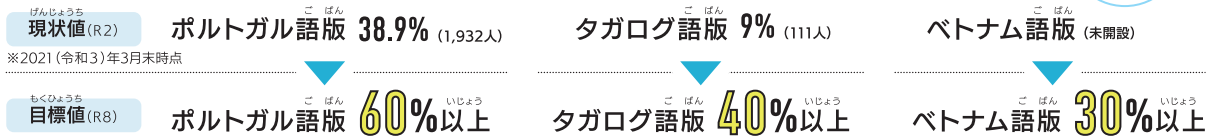
### 多言語対応と日本語学習機会の充実

※ 「いわた日本語能力判定」により「レベル0から1」および「レベル1から2」へ昇級した累積人数



## 02 指標

外国人情報窓口から情報提供するSNSのフォロワー(情報到達)率



## 03 基本方針

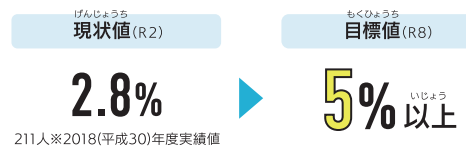
### 安心して暮らせる環境づくり

外国人情報窓口における相談対応の件数



## 02 指標

地域防災訓練に参加する外国人市民の参加率



## 04 基本方針

### みんなで築く IWATAの未来

初期支援教室で支援を受けた児童生徒の適応状況(学校における3か月の出席率)



※ 日本語能力判定……「レベル0」とは、日本語を話す・聞くことがほとんどできない程度。  
 「レベル1」とは、限られた単語を理解したり、話す・書くことができる程度。  
 「レベル2」とは、日常生活に必要な日本語を理解したり、話す・書くことができる程度。